

地域おこし協力隊が、地域のために
どのような活動をしているか紹介します

地域おこし協力隊通信



一戸猟友会の皆さんと記念に1枚



Profile

長井佳代さん

1979年兵庫県生まれ。管理栄養士として献立作成、栄養指導に従事。農業や狩猟に興味があり、令和7年5月着任。将来はジビエと自然を楽しめる宿を作るのが夢。



被害現場での活動

Q1 活動内容を教えてください

鳥獣被害対策を担当しています。わな猟免許を取得し、一戸猟友会と連携しながら、状況に応じてくりわなやクマ用の箱わなを設置しています。設置後は、毎朝見回りを行い、捕獲できた場合は、適切に埋設処理をしています。有害捕獲では、先輩方と一緒に巻き狩り猟を行う機会もあります。一戸猟友会への支援を通じて、猟友会の先輩にご指導いただき、狩猟技術や山の知識など多くのことを学びながら、活動しています。また、広報紙や町ホームページで情報発信を行うほか、町民向けの講習会も企画しています。野生動物や被害対策について、町民の皆さんと一緒に学びながら、安心して暮らせるまちづくりを目指しています。

Q2 課題に感じたことはなんですか？

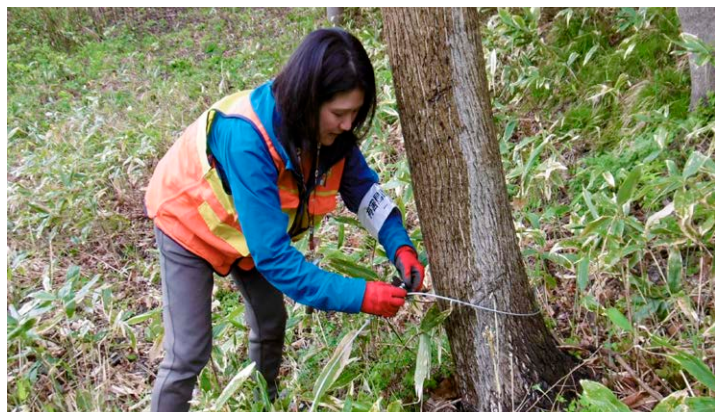
鳥獣被害対策では、「早く捕獲してほしい」という声をいただくことがあります。安全上の理由からわなを設置できない場所もあります。また、捕獲には県や国の許可が必要で、時期によってはわなを一時的に撤去しなければならない場合もあり、被害を受けた方にご心配をおかけしてしまうこともあります。電気柵の設置や草刈りによる緩衝帯整備も重要な対策です。人間と野生動物の生活圏を分けるために、電気柵の設置や緩衝帯整備に関するワークショップなども開催し、地域の皆さんと一緒に被害対策を進めていきたいと考えています。

Q3 印象に残っていることや嬉しかったことはなんですか？

被害現場に設置した設置わなが鳥獣の捕獲につながったときは嬉しいですね。被害を受けた人が「これで安心した」と話してくれる姿を見ると、迅速な対応の大切さを実感します。一方で、獣道を見極めたり、捕獲につながる確かなな設置を一人で行うには経験不足な部分もあります。先輩に学びながら、早く一人前の猟師として地域に貢献できるよう努力していきます。

Q4 一戸町の魅力はなんですか？

一戸町の魅力は、『水』と『人』だと思います。温泉の泉質が素晴らしい、水がおいしいので、野菜やお米がとてもおいしいです。また、猟友会の先輩方や町民の皆さんが、とても温かく迎えてくださっていることもうれしいです。通勤中に「狩猟の子だね、頑張ってるね！」と声をかけていただくこともあり、温かい町だと日々感じています。そんな一戸町で、鳥獣被害を少しでも減らせるよう、これからも活動していきたいと思っています。



くりわなの設置作業